

# としょかん南アルプス



南アルプス市立図書館通信 NO.22 2012年10月1日発行

<http://lib.m-alps.ed.jp>

秋晴れの心地よい日が続いています。夜になると窓の外からは虫の音も聞こえ、読書を楽しむのに最適な季節です。市立図書館では、読書の秋を満喫していただくために、「秋のひととき朗読会」や「秋の子どもフェスタ」などのイベントを開催します。多くのおみなさまのご来館を、職員一同お待ちしております。



「漢詩を愛し、美術を愛した才人」

## 河西豊太郎 かさい とよたろう

河西豊太郎は、1874年(明治7年)、十日市場村の豪農の家に生まれました。

三恵学校を卒業し、東八代郡南八代村の加賀美平八郎が経営する私塾成器舎に入塾します。この塾には、近在だけではなく県内各地からも多くの人材が集まり、のちに実業界で名を知られる小林一三や堀内良平も、豊太郎と同時期に学んでいます。

その後、栃木県や北海道の新天地開拓に失敗。1891年(明治24年)に、17歳で結婚して郷里に落ち着きますが、まもなく、加賀美平八郎の影響を受けて政治活動に入り、県内で頭角を現します。1917年(大正6年)衆議院議員選挙に当選。以後2回当選し、1942年(昭和17年)には貴族院議員となります。

この間、1923年(大正12年)に国民新聞副社長として、中央実業界に進出したことを契機に、東北電力の代表取締役、関東ガス社長など、電力関係を主に、鉄道その他多くの会社の社長や重役にもなりました。

また、甲州財閥を形成した根津嘉一郎とも親交が深く、根津美術館設立当初からその中心となり尽力し、理事長・館長を歴任します。

豊太郎自身も美術品に対する深い理解と識見を持っていました。嘯月(しょうげつ)と号して詩文をこよなく愛したことは、よく知られています。政界に、実業に、文化にと多くの足跡を残し、1959年(昭和34年)に、85歳で亡くなりました。

南アルプス市十日市場にある嘯月美術館は、豊太郎・俊夫の2代にわたって収集された美術品の寄附によって設立された県内最初の私立美術館です。



### 河西豊太郎に関する本

『河西豊太郎』 村松志孝編著 山岸活洲編著  
『郷土史に輝く人々第8集』 青少年のための山梨県民会議  
『ランデブー 12 第3巻第4号』 山本 育夫事務所編

南アルプスが誇る偉人 No.2

かつやくする

# 図書館ボランティアのみなさん

市立図書館では、行事のとき、多くのボランティアのみなさんにご協力をいただいています。内容は、「おはなし会」での読み聞かせ、「図書館まつり」「朗読会」の出演まで様々です。

このコーナーでは活躍していただいているボランティアのみなさんを紹介しています。第2回は白根桃源図書館のボランティアのみなさんです。



## 図書館朗読ボランティア あめんぼの会

代表 古屋成子 会員8人

平成2年にグループが誕生しました。広報の朗読や、白根聖明園・元気館で朗読を行っています。また、広報の視聴者と交流会を開いています。

図書館主催の朗読会「きずな亭」は、今回で5回の出演になります。多くの参加者のみなさまに聞いていただける喜びを感じています。



## ききみずきんおはなしの会 (白根)

代表 倉本末津子 会員24人

「おはなし会と工作教室」、毎月第2・第4土曜日の「おはなし会」で、おはなしやパネルシアター、読み聞かせなどを行っています。

手作りの手袋人形やパネルを使って、優しく語られるお話は、子どもたちに喜ばれています。



## 上八田くれよんの会

代表 小野清美 会員15人

「春の子ども読書まつり」などの図書館行事で、人形劇を行っています。地域の子供祭り・文化祭・敬老会でも上演しています。

レパートリーの「ふくろうのそめものや」「999 ひきのきょうだい」「そらまめくんのベッド」などは、子どもたちに人気です。



## かりんの会

代表 鈴木和代 会員2人

「春の子ども読書まつり」などの図書館行事で、読み聞かせやおはなし、エプロンシアターなどを行っています。

夏休みには、図書館主催の「親子手作り絵本教室」をお手伝いしています。参加者の中には、コンクールに出品して、賞をいただいた人もいます。



## 齊藤順子さんが文部大臣表彰 を受けました。



文部科学省では、子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、特色ある優れた実践を行っている小中学校、高等学校、図書館、民間団体及び個人に対し、文部科学大臣表彰状を授与し、その実績を讃えています。

平成24年度は、南アルプス市立図書館ボランティアとしてご活躍いただいている齊藤順子さんが、全国個人6名の中に選ばれ受賞されました。

### 【プロフィール】

兵庫県姫路市出身。

大学卒業後、神戸市立幼稚園に3年間勤務した後、結婚のため山梨へ。1988年、青い鳥奉仕団音訳部に入団。その後、ききみみずきおはなしの会、でんでんむしの会、すずの会会員として、朗読、読み聞かせ、ストーリーテリングなどいろいろな方法で図書館にボランティアとしてかわり、現在にいたる。この間、図書館ボランティア養成講座の講師などを勤める。

2001年より、山梨県の図書館ボランティアグループのネットワーク「図書館ボランティアやまなし」代表。2011年より、NPO法人「山梨子ども図書館」理事長。

2007年5月、自宅の一部で、のはら子ども文庫を開設し、近隣の乳幼児と保護者や、小学生たちに、本の読み聞かせや紹介のほか、無料で本の貸し出しをしている。

山梨英和大学、都留文科大学非常勤講師。(いずれも司書課程児童サービス論担当)

## 甲西図書館の上田司書が認定司書の資格を取得しました。

### 認定司書とは？

司書の専門性の向上に必要な図書館の実務経験、実践的知識・技能を継続的に修得した者として、日本図書館協会認定司書審査に合格し、公立図書館や私立図書館の経営の中核を担い司書として公的に認定された者のことです。

2010年度に第1回、2011年度に第2回の認定がなされ、現在全国に52名の認定司書がおります。上田司書は山梨県内では2番目の取得となります。

今回は、学校図書館や白根桃源図書館・甲西図書館で勤務した経験、研修などの自己研鑽、論文「市立図書館と学校図書館との連携」などが審査の対象となり認定されました。

### 「ひとつのステップとして」

甲西図書館

上田 弥生



私は、市立図書館に勤務する以前、学校図書館に20年間勤務していました。市立図書館勤務は、今年で6年目になります。市立図書館は、赤ちゃんから年配の方々まで、誰でも利用できる場所です。うれしいことに、学校図書館勤務のときに小学生だった子どもたちが、お父さんやお母さんになって、子ども連れで図書館を利用している姿を目にします。

市立図書館の司書としては経験も浅く、勉強不足なところが多々ありますが、日々多くの方々と接することのできる司書の仕事に、生きがいを感じています。

今回の認定をひとつのステップとして、これからも自己研鑽に励み、図書館を利用されるみなさまへの、よりよいお手伝いができたらと思っています。

# 学校図書館との連携

よりよい図書館を目指して！

南アルプス市立図書館では、市立図書館と小中学校図書館との連携を強化しています。市内の6つの市立図書館と22の小中学校図書館は、互いにパソコンでの資料検索ができるネットワークを結んでいます。また、司書など図書館に関わる全職員で合同の研修等を行っています。

### 学校図書館・市立図書館合同研修会

学校司書と市立図書館司書が、合同で研修を行っています。

今年度は「スキルアップ研修」として『市の現状と行政改革の取り組み』について学びました。政策推進課の職員が、市全体の中での図書館の位置づけや予算などについて、わかりやすく解説してくれました。

このような研修の機会を利用して、司書同士が情報を共有したり交流を深めたりして、仕事に活かしています。



昨年までの研修内容

21年度「接遇研修」

22年度「読み聞かせ研修」

23年度「調べ学習研修」

### 学校読書調査

平成16年度に学校読書調査を行い、子どもの読書活動推進計画「ひろげよう子どものせかい」（平成19年）を策定する際の参考としました。

また、22年度にも再度調査を行い、第2次の活動推進計画（平成24年）を策定する際の参考としました。

調査結果は市立図書館ホームページにも公開されています。



### 学校司書実務研修

平成21年度から、学校司書が市立図書館で実務研修を行っています。内容は、市立図書館での窓口業務や、図書館データベースの活用方法などです。

初年度は学校司書全員を対象に、次年度からは新任学校司書を対象に実施しています。



### 光交付金図書購入

「住民生活に光をそそぐ交付金」が、平成23年度・24年度の2年続きで、学校図書館と市立図書館に資料購入費として交付されました。

この交付金を基に、学校図書館・市立図書館ともに、備えておきたい資料である事典、辞典等の整備や、資料の充実を図りました。

これからも、学校図書館・市立図書館ともに、よりよいサービスを提供するように努めていきます。